義筆

乾

中村俊定文庫
文庫 18
882
1

篠を植は節を植る俳士松しま
兄さらんは風雅にあそふといへとも心地すゝまさる
事しあるの務に京に探らんとするのこゝろを須
廻翁此頃にして芭蕉翁昔話に入おけり
其の花を識らは一種の発句とはなれ
此に此紙の表に明らかく其類を集し
其ほとに一集の風を興し其を編して
あらの発句とや云ふ林鶴しはまた

宮城県図書館

中村俊定文庫

萩笠集上

年波行かけつかもとも
松島は桜とあれとも

海岸あれとふるさとのも　素仙

笠先の雫も末の三日月　得蓉

葉の火の中の栗拾ひて　武義　竹山

義経の鎧拾ひし峠　信夫　一止

あつかりと白ふ黄蘭のふる雨に　示月

夜半なきて又降ぬ鶴　江之

永禄三　信濃西馬　禅

梢から鶏た来る鶴の場　湖立
古き佛いふ圓頂をきく　静支
見とれ梢を姉も妹も縫のかゝり　喜忠
稲穂も明婦町乃きく　清武
うつしと伊勢縮紬に余念那く　角上女
つまきおくも手許ふ鏡　朱　少也　朱邑
月の出る宿木も漂ひさわさかれて　城段　蕪村
嵐の宿中に蕗渓し　柘　玉緒

京の地をはなれて侍る霊北あさ　矢朗
明石や旅乃商人　月昇
若菜の吹あましろ濁水　嘉寧
積し楼木に頭実の堂つ　晴風
八帖のうちに巻はしり花　雪湖
熟柿多けは郊に盲較　琲洋
上向の月を鮫持紐みうる　好静
むかし西行の嘆への東楽　みとこり　璣窩

水の鈴虫の鳴く夜哀れ　其水

籠を出て中庭の松　寄家

鳴く蛍を人を驚かす　蕉窩

月の雲を仏世の春を　松窩

帳張り水を鳥の鈴瓶　上毛　外雪

一日雪て山し風　琴雪

新米の取初　武義　多陽

本務四五日　江戸　三和

以後毎年八月の句

人を見て蛍を驚かす　巴山

雲と雨を寒の風　西南

鳴く　帳張り水を　物義

蛍を雪の鳴く　毎年　夫を鈴　西馬

山を吹く　鳴く　物義　左右

水原徽雨巷即興

流れ来る水の影くだく蛙哉の声　雲窓

鳴ふ初蛙の峰に響く鐘　素明

昨朝の石蒙の新の春　雲窓

梅の香や四年蓬を志す　明

さくら花月の石ゐ山の如き意　雲窓

時作りしさくら満如帖　明

さくらゑる秋の山寺の井の鐘　雲窓

兼意この岩戸の奥深き　明

所望蛙聞く新酒思ひ　雲窓

新しき新を吹くつゆ　明

大戸さす春の雪おもし　雲窓

三度花御の人の人　明

月の半小山の中　雲窓

石も半ばの如く鶯ひらく　明

雲しく年ぬしの吹風
花ゝを折るの袖さき雁ヶ井
嘆せ年人の集る御ゝの宿
新ゝ自慢の鏡鏡もる
河江坊を養ゝ出るハ意ゝ
ゝ社御殿を金ゝ
東のゝゝ社殿御ゝ付
雲ゝ江ゝ御ゝの

嘉江久東の色者社連ゝ
刈江連東御殿の下ゝ
お祢ゝ為ゝとゝ大ゝ
封筒を雲ゝ色ゝ細の奥
江久の中ゝ為ゝ吹ゝ着美
器明ハ白ゝ板持(セキ)ゝ
地ゝ御ゝ付ゝ月の雲
お社江名きゝ引宝

淵明を行くへ杖を曳く
浴出の雲嶂峰すると時
蛟つきを鎖ふ鎖の
杖をあふ中
家つるもなるも時の
鎖目も時なる山畑

明
明
明
明
宗

長器宗中

墨をすり杖の筆の
杖のかけ字書墓
海の書敷を
為も姉人めと
上方八年も弱の
芽茎をかけし

龍の案
案海
案敷
儀
明
敷

一書の甚しきはよろしからず候
御ゆかり志き方に付の立所
處は筆にてさへまいり哉
山と山の間に所候
神のよりすぐの精乃出高し所
やうこの気合と見えて有れ也
一速利便もの見る候の月儀
候又はちと出来候所

便も好き刀松川節の沙汰に哉
まいりてまいれは枝のこしかき儀
甚度も者は家も露を語し出所
殊の外難の書寄も哉

憎まれて猶わかやぐ蓮に柳　富代女

ミヽ十ノク

井の中も嘸海なれや秋の月　清武

所生ぬ住居ほしき葉乃露　静夫

郷の色千とせむかしの緑の里　御孫

海原へ筆のすさみや天の川　鶴英泉

失ひし絹村の世の春を追へ昔　東里

初秋の柳に紫四条涼しく柳　大樊

九折山路を登るや蔦の香　高何

蓋けれは清水筆のつゆ好晴美哉　江三

此月は古き方に給ふ結び枝哉　如阿

松の様すゝんと物まう余寒の華　木月

以様に如何中秋葉の色は今に驚　松成

是は雨雲き秋れと茶の針をそ秋の露　千良

草花や焚火に見中人の行　湖立

第嵐や先我家にも中野め　之朝

立ならぶ船のともし松や春の月　含囲

さらに一人の部水郎つり舟　一止

帳部　かすみ　七夕の性　きゝの形　歩　古聚

ゆるる思ひ牡丹　牡丹　一雫　猪山

源氏物語　もみぢの　月山

昔のして　牡丹　天象　玉鉾　実古

角　西　久　牡丹　中秋乃風　遊竹

水鄙　かゝる　ゆく　ゆく　紅葉　紫山

苗　鶴　して人の　鶴　源田　孔　猪狩

二丘　吟雪　西池　里傳　牡丹　峰　秋　水　鶴　源　の

久　久　北　の　久　西　久　出

月　の　さ　西　池　中　野　の　池

孤猪　山　中　山　富　の　影　寸　紫蝶

久　て　つ　ゆ　き　ぬ　雨　中　れ　遊南

金峰　中　き　秋　を　う　対　て　水　き　雲雅

鶴　家　安　て　雪　る　中　二　秋　猪　里傳

中　年　鶴　峰　て　法　中　山　乃　梅　西池

元日や机に寄ふ戒筆もし　山彦

男女代や出湯の鯉九七五之の中　二葉

鶯の香をもとめるは鮎の梅　蘭丈

明れは松に若竹猫乃恋　素山

鮮雪をまろひありや木葉竹笑　御風

右のかゝしおにかりのまんまよ
喜九吉松まつのきかのそき半
半をおしてけ勝手寸

松島をみんとて梅によし山の郎　素明

藪咲や川とる年の梅花も　素明

出ヶを好物計好以の輪鯛　乃若

鉄炎の席には霧出好鉄九狩ー　西馬

出るしひつつる堀上の土　明

見咲や月の咲雑の台つとひ　基

竹作定をは家布へのはこの　馬

明国言葉八理を長一つ長
書と云うて寄物物味
多まして紫式部稚小説の解説
紙に書て紙の書風
嶋の浦明を求る料理
寄物に寄せて物を
以て書て結書つ稚月の和
紙の如き書き年始
明
蓬
馬
明
蓬
馬
明
蓬

以て紙に結て和歌を書
寄物に寄せる歌の場面
はるの本歌中の第三
を以て紙に書て節
旅人のもとに寄せ
第の物に寄せて
方切に明を書
寄物に物の松山
馬
明
蓬
馬
明
蓬
馬
明

[illegible]　蓮
[illegible]　馬
[illegible]　仙
[illegible]　蓮
[illegible]　馬
[illegible]　仙
[illegible]　蓮
[illegible]　馬

[illegible]　仙
[illegible]　蓮
[illegible]　馬
[illegible]　仙
[illegible]　蓮
[illegible]　馬

山梔子の花を見て　等躬

小端まつの緑の底の月の影　同

軒ちかう雲ちかう皆千年経たり　等躬

ちるぬ事の木の葉より軽し　同

高野の雲物思ふ時の木の葉　測

下京の物の哀の秋の夜　同

行春の大きなる寺の林　測

日の掛金の帳を高く巻　同

下京をおのれと見て出し　測

買菜売りすゆめの引風　同

紙帷の松の枯てもあれ山　測

雨ふれば妹の人やかなる　同

盥風呂に出合の月　測

四五日の花見の事の所望　同

唐黍の穂すゝきぬ唐経 渕

黒き十里ハ皆野の宿 明

菊かほる寺も寂しき 渕

又約束ありと来る鮎汲 明

瀬おろし黄花水も堪て 空

塚ほど築くるその 渕

悪僧の癖に銘銭を寄進 明

浮世の篠の雑炊 渕

あまをとこ歳毛も甍毛も麦のみそ 明

千尋了雉呼れて淀く 渕

古壁の蜘をうけ了浮か宿 明

筆も茅の好嬪のくゝり香 渕

土佐の紀のこゝに了る経机 明

剃て髪年寄る満主の局 渕

五十年以来まれの月を宵 明

玄波打てゆうふ子稲の穂 渕

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]へ[illegible]祝[illegible]　湖
[illegible]の[illegible]　湖
[illegible]の[illegible]　湖
[illegible]月[illegible]　湖
[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]月[illegible]の[illegible]　為山
[illegible]泰[illegible]　素湖
[illegible]の[illegible]　山
[illegible]性の[illegible]　湖
[illegible]の[illegible]　山
[illegible]の[illegible]　湖

[illegible]と四つの時計で当番[illegible]

夕方の[illegible]うきかうとあり

[illegible]ひの[illegible]を[illegible]

[illegible]の華[illegible]の庭

[illegible]十数の[illegible]家

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の月

[illegible]年を[illegible]て[illegible]

山 明 山 明 山 明 山 明 山 明

新[illegible]で[illegible]

地震の[illegible]大[illegible]

[illegible]小[illegible]

地[illegible]

[illegible]の加減を[illegible]

寺で[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

山 明 山 明 山 明 山 明 山

見の針ものの きし魚 蘭 明

さてる 新 の 年 の 春 山

力 宮 の 春 と 立 て 屋 下 に 明

天 神 橋 の 蕎 麦 清 水 山

俳 句 を 結 ま ま ぬ 秋 乃 高 明

あ ひ と な て 茅 舎 橋 山

鯛 つ る を 待 ち 雲 ま て る 月 明

り 御 し て 寒 き 病 高 山

ト 水 鶏 ニ 鶏 て 鳴 き 高 明

鶏 角 て 高 物 生 き ま し 山

参 す 高 て 鶏 て 鳥 を 思 の 生 明

を て 中 ま て 色 き て 結 山

四 る 細 る 寒 る 打 一 を の 明

ま し て 生 て 明 の 年 入 山

我が社中は時雨紅葉の邦　四方
吟ずる程の物も物なり　一籟子
葉の色も葉もまた細雨　如鬼子
如のしと雲の峰の雲葉　嘉雀子
雲ひめ雲の物ゆえの向　寵渕子
もの物語る尾の花清水　蒼峩子

竈火のうつる所葉　橋山　物宝
秋も新月の人の月露の去　紅蜻
ずなるうつる物うつる　九起
蒙山は物もうつる物の也　子蒙
紫や物物物物の峰嶺の雲　文蒙
つゆ雲和一寸うつる糸を物うつる　鄭　無陰
雨きりも多年　鶴　和の中　石舟
初雪の時も時雨の時一寸　徐年

等中様立翁の句稿　里（大坂）　鼎左
貴方中秋西瓜あるを第の上　小鶴
立秋中月の句水鏡多のを　林薗
十月の頃より出来る菊　松嶺
笠菊の句新中秋の池　素堂
菊を見て東北を書き水鏡（イダミ）　四年
十月中旬の面白き菊　宋（ソチ）　魚示
面白きを折り新月菊（ハ）　風橋

西月の名残も出るを巨燈の形　葉茶
菓畑中新　拾新物の句　天馬
山の宝来無き中中風の古話　松丈
紅葉の名残も明るを山の宝　山月
徐西を風も岩の名菓の形　古一
宝の付い義を別名物の月　木帆
吹変る松出の名残柳　この形（トサ）　古雪
宝を高水を宝宝岩の色　重雨

本のまゝ閑のまゝ長月　一氣
寫かを基ゝ初尺余の事　苗姓
掃種を祝る吟　千四と　市鄙
隅の基ゝ吟　柳　樂　楔　外
當掃　紫高　ゝ計　四　外
年まる事　要　掃水　元　文
山ゝ大工の馬　寫　邦　柳汁
ふ野ゝ吟ゝ年の　の　年　吾迪

弱衆の外ゝ基ゝ　餘乃友　嵐夕
案ゝ餘ゝ　餘の吟ゝ　我（イヨ）　紫姑
尺ゝ種ゝ吟　衆ゝ　雪百　常無
月ゝ基ゝ　減ゝ中紫　信（ヒセン）　想ゝ
吟ゝ年ゝ　年ゝの雪ゝ　餘　屑山
料理屋の風情ゝ　新中紫　嵐　左京
田畑ゝ外料の　陳ゝ　掃ゝ　弱紫
尺ゝ嵐　衆外と　柳ゝ　柳紫

一ツ橋本の芳春記聊の事　柳河
日光御社中簡書柳　多南
鶴岡人の名刺を表紙　日向　双子
霧島中の一村を嶋　鹿島
日の高千穂峰　知覧　チクコ　山谷
鶴見岳　枯尾　サツマ　綾冠
雪富中村の名物紙出　馬見
浦々柳河中庵の事　柳子

懷朝居士大祥忌
一軸を經写を題名稿事
矢井の柳の高き空の邦　ナカサキ　鶴壽
光の京も鶴ヶ丘　吹　鶴庵
高山と鶴鶴の卵ヶ高ん　千江
岳情の山ん井の鶴の村　喫古
柳ヶ丘中鶴ヶ浦写真鶴　西空
竹屋の山ん写真人色　光光

英の月ひかりの為に曇りぬし　英湖
延喜十年為物名歌　竹谷
神仏次第不同歌　唐と和
男家持の歌　の筆
五十句歌
物の名西の家隆卿筆
名題歌　千江
物の名　嶼山

明覺しの世一面平なる
傘のごとくなる川の名
山物の行きもなき
江のうへの月数
大空をきしてやう
覚えなきもの
見しの
見る山
無行なるもの
顕乃拓
之卷

世世繼ぎ
所所の雪吹つ
吹四の宮
なるなるの響
中なる
雪つんでなる
高い所
地よ物
石室
杜水
スルカ
滝山
サカミ
立宮
於杜
冨士
山霧
宮頂

汐待ち雪庵 一面の 顔山
山の雪崩かくれ解ける 冊堂
春と不思議なる 初の新 桜堂
明るき中人い形 物の影 物堂
雪の蕨 蕨なる 嘴ひ生 植古
鶯の影 雪の中 水社上 可頑
中しと雪なる の乙 点山
強なる 中 水の裏の 水 如く

嘴の春なる 物の 如春
鶯中川を 種なる新の 摩深
罠の行る 鶯面 雅角
強る 耳 嘴の 水鄭
鶯中 春の 可合
鶯白 橋 白 鶯の 鉢石
初春の 初 橋 中 二月 この 春 丈
立 春 人 社 新 増 九 義 生 春 羽仙

鶯もなきて年寄しこの春　矢均
子は雲にかけりけり梅柳　主庸
名ハこの鳥や何とさへずりかんせむ　如泉
鶯は誰見出しあり池の雛　呉丁
馬も梅曹ぬ出や春の雪　允和
年明て初緑あり小松引　遠美
身にしみて霞や春の水　南窓
朔子寒し家居はなれし鳥買鉢　観堂

若菜の風ある寒柳かな　白浴
引ハ手をこゑてゝ小松かな　花水
うぐひすや日のすきも晴き鶯と出鶯　梅史
鶯の声晴まの梅の笹蝶かな　素琳
手まきれ寒さも暖めや松の朔子　一露
大寺の鐘の音出ありて夕のすゞみ　一西路
春の雪古蹟は催のはなかな　桃翁
雲かゝんと春は野ねなの菜草　カヒ　雪庵

[illegible] 一の鶯
[illegible] 山
[illegible] 乃吉 シナノ 高吉
[illegible] 柳筋 [illegible] 老
[illegible] 山桜の [illegible] 解 [illegible] 文
[illegible] 梅の [illegible] 梅紅
[illegible] 梅の [illegible] 起さ [illegible] 仙王
[illegible] 貴多

月[illegible] 書き梅[illegible] 吉梅
[illegible] 梅[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 舞[illegible] ノ左
[illegible] 梅[illegible] 梅桃
[illegible] 世[illegible] 長荘
[illegible] 流[illegible] 長[illegible] 水 [illegible] 芳
[illegible] 山[illegible] 天の河 月[illegible]
[illegible] 長[illegible] 白高

宗峰寺山に登り行く　寺島
雲山の中に立ちて空の
雲の中に入る　和泉
散りかかる雲の中の茶の煙　熊谷
雲の中に入る日の沖　鶴
雲かかる中に峰山の空　美文
一筋に入る中に入る鶴　可屋
出船に黄昏の中に鶴　鶴南
鶴の雪吹の邪　湖

雲家

雲枯の中に立ちて角の如　枇儀
雲の中に入れば山根の月根葉　仲燈
雲山の中に入る秋葉　島岬
鶴の根の雲の中に入る　水月
小仏の雲の根の葉の邪　石彦
鶴の雲の中に入る色　新池
武蔵に雲の中に入る葉　幻外

以ての外の事なれども
御ゆるしを願ふて郷里
親元の方へ帰りたく存
ずれども御聞届なく
愛の御ゆるしを願ふ事
なれども和さんも親
ゆるしなく親ハ御
未家と言ふ事
なれども百姓家御
ゆるしなく

親元
へ帰
度願
紙

○廿七